

SAIDAI CONCIERGE

サイダイコンシェルジュ

01 巻頭特集

在学生に聞きました。

埼玉大学の魅力って どんなところですか？

05 ラボ探訪 — Welcome to my laboratory —

- 教養学部 日本・アジア文化専修 / 劉研究室
- 経済学部 メジャー：国際ビジネスと社会発展 / 内田研究室
- 教育学部 学校教育教員養成課程 / 清水研究室
- 理学部 生体制御学科 / 島山研究室
- 工学部 情報システム工学科 / 小林研究室

10 埼玉大学学生後援会がサポート

学生の自主的活動プロジェクト
児童文化研究会

11 グローバルに活躍する人材へ

理工学研究科 川本研究室

12 サークル紹介

SCJO Blue Band

13 活躍する卒業生からのメッセージ

埼玉県警察 大宮西警察署長
杉崎 恵子さん

14 学長のページ

ポスターに託す学長の熱き想いと
埼玉大学のメッセージ



埼玉大学マスコットキャラクター「メリンちゃん」
図書館内「梶田隆章先生ノーベル物理学賞受賞記念展示コーナー」にて

在学生に聞きました。

埼玉大の魅力って どんなところ ですか？

Please tell me the Saidai of charm.

現在、埼玉大学には教養、経済、教育、理、工の5学部合計7,016名の大学生が在籍しています（平成29年5月1日現在）。それぞれの目標に向かって、日々学業や研究に勤しむ彼らは、埼玉大学のどのような点に魅力を感じているのでしょうか？大学のことをよく知る各学部の3、4年生に聞きました。



学生のチャレンジに
応えてくれる
学びの環境。

教養学部 教養学科
哲学歴史専修4年
林部友紀子さん



アクティブに学ぶ姿勢を
きちんと評価してくれるところ。

経済学部
経済学科
メジャー：国際ビジネスと
社会発展3年
松田 滉さん



教養学部

教養学科
哲学歴史専修4年

林部友紀子さん(埼玉県立大宮高等学校出身)

柔軟性が身につき、 前向きになりました。

埼玉大学を選んだ理由は？

入学前は、はっきりした目標がなかったので、大学では勉強しながら将来のことを決めたいと考えていました。そこで、できるだけ幅広い分野が学べる学部に入りたいと思っていたところ、埼玉大学の教養学部が希望にぴったりだったのです。地元の大学で安心して通えることもあって志望校にしました。

大学について、入学前のイメージと実際に異なる点がありましたか？

入学前は、地元出身の学生が多いだろうと思っていたので、学生が日本全国から集まっているのは意外でしたね。

留学生も含めて、様々な人たちと交流する機会があるのは埼玉大学の特徴だと思います。

入学前に学びの幅が広いと思った通り、教養学部の1、2年次のカリキュラムは必修科目が少なく、様々な講義を受けることができました。しかし、学年が上がって、進みたい道が見えてくれば、専門的なこともしっかり学べる。そのバランスが私にはちょうど良かったですね。

また、先生方は面倒見がよい印象があります。学ぼうとする意欲があつて、自分から積極的に動くならば、常に期待以上の対応をしてもらえると思

ます。

専攻を教えてください。

歴史学を専攻しています。研究の中心となるテーマは日本の近現代史です。元々歴史は好きだったので、様々な講義を受ける中でそのことを再認識した結果です。

歴史というと、高校までは暗記が中心ですが、大学では史料を使って、歴史上の事件の発生理由や背景、人物像を自分で考察していく研究が中心。このことこそが歴史学を研究する醍醐味だと思います。

歴史学を学んで、物事の見方や価値観は1つではないということが理解できました。そのおかげで幅広い視野を持つことができ、柔軟性が育ったと思います。このことは、学問をする上でも、プライベートにおいても非常に役に立っていますね。



学が意欲に
きちんと応えてくれる
懐の深さ。

教育学部 中学校コース
学校教育教員養成課程3年
横田友梨香さん



教育レベルが高く
専門性が磨けます！

理学部
数学科4年
土屋夏美さん



勉強に集中できる
穏やかな
校内の雰囲気。

工学部
情報システム工学科3年
※2018年4月より
情報工学科に改組予定
高林瑞穂さん



経済学部

経済学科 メジャー：
国際ビジネスと社会発展3年

松田 滉さん(東京都立上野高等学校)

**特別プログラムで身についた
高い国際力を活かしたい。**

埼玉大学を選んだ理由は？

決め手は「グローバル・タレント・プログラム」の存在です。

元々、旅行が好きで観光に興味があったのですが、「観光を学ぶなら、まず経済学を勉強した方がよいのではないか？」という高校の先生や両親からのアドバイスもあり、進路決めの際にはまず経済学部に進むことを決めました。そして、色々な大学を調べている内に、埼玉大学の経済学部には「グローバル・タレント・プログラム」という制度があることを知ったのです。これは英語による特別科目や交換留学などによって、グローバルで活躍するための

力をつける特別プログラムですが、その留学先に観光学が有名な米国のセントラルフロリダ大学の名前を発見。日本で経済学を学んだ後、留学して観光学を学べることに魅力を感じ、受験することを決めました。ちょうど今年5月に留学から戻ったのですが、現地では、ホテルや観光関係の団体に訪問するなど、貴重な経験を通じて、実践的に学ぶことができました。

参加ゼミについて教えてください。

観光にも関連のある「まちづくり」をテーマにした内田奈芳美先生のゼミ(6ページ参照)に参加しています。ゼ

ミも含め、経済学部で学ぶことは、観光学そのものより、観光を多面的に捉えられ、結果的に大正解だったと思っています。将来は大学や留学で学んだことを生かし、日本の魅力を海外に発信していく仕事に就きたいですね。

埼玉大学で学ぶ魅力は？

人として成長できることでしょうか？ 私自身、高校時代は目立つことを避けるようなところがありましたが、何事も自信を持ってアクティブに取り組めるようになりました。それも大学の先生方が積極的な行動をきちんと評価してくださったおかげです。また、経済学部は、通常のカリキュラムでも1科目以上英語による専門科目の履修が義務付けられています。大学も本気でグローバル人材を育てようとしているのです。将来、国際的に活躍したい人にはおすすめです。



教育学部

中学校コース
学校教育教員養成課程3年

横田友梨香さん(埼玉県立川越女子高等学校出身)

教員に必要な不可欠な 対人スキルが身につきました。

埼玉大学を選んだ理由は？

志望動機は、実家から通える国立大学ということ。それとオープンキャンパスの際に、先輩方の人柄や学校の雰囲気などがどことなく素朴で、「校風が自分に合っているな」と感じたことも決め手になりました。

埼玉大学で学ぶ魅力は？

まず、先生との距離が近く、丁寧な指導が受けられることでしょうか？

これは教育学部に限ったことなのかとも知れませんが、様々な経歴を持つ先生がいるのも特徴的です。実際に小・中・高校の教師をしていた方もいれば、

研究一筋でやってこられた方もいらっしゃると思います。そのため、教育現場の経験に基づく実践的な内容はもちろん、専門的なことも学べるのです。

だからこそ、私が在籍している中学校コース生活創造専修家庭科分野にたくさんいるような、教員を目指すのではなく、純粋に家政学を学びたいという学生のニーズも満たせるのだと思います。

また、大学では色々な学生が学んでいます。性格はもちろん、勉強に対する姿勢や育った環境など、皆バラバラです。高校が女子高だったこともあって、それまでは同じような環境の人た

ちとしか付き合っていなかったのですが、大学での様々な人との付き合いから気付かされることは多かったです。

将来、家庭科の教員になりたいと考えていますが、人にはそれぞれ異なった背景や生活環境があると気付けたことは、教室で色々な子供たちと接する上で意義深いことだと考えています。

目指す教員像を教えてください。

家庭科は入試に出ないので、どうしても勉強が二の次になりがちです。

しかし、家庭科は「生きるための学問」と言われるように、生活力を高めるためのノウハウやスキルが学べます。まずは私自身が大学で気付かされたように、生徒たちに家庭科の面白さや奥深さを知ってもらいたい。そして、その中で後々の生活に役に立つことを持ち帰ってもらおう——そんな指導ができるようになりたいですね。



理学部

数学科4年

土屋夏美さん(栃木県立宇都宮中央女子高等学校出身)

先生の指導と仲間のおかげで 成長できた自分がいます。

埼玉大学を選んだ理由は？

予備校の先生に「埼玉大学には勉強を頑張る学生が多い」と聞いて、私もそのような環境に身を置いて勉強を頑張りたいと思ったのがきっかけです。

先生の言葉は事実で、入学後に出会った同級生たちは皆勉強熱心。これまで仲間同士で切磋琢磨しながら、勉強や研究に取り組んできました。

また、中・高校の数学の教師になりたいので、教員養成に定評ある教育学部があることも埼玉大学を選んだ理由の1つです。数学の教師になるには教育学部に進む道もありますが、より専門的に数学を学ぶため、数学科に在籍

しながら教育学部の教職課程を履修することを選びました。

埼玉大学で学ぶ魅力は？

数学科に関して言えば、講義の質とレベルが高いことですね。先生方からは「ここで学べば、どこの大学院に行っても通用する」と聞いています。1、2年生の頃は、数学の基礎的な部分を広く学びますが、初めはついていくのが精一杯でした。元々数学が好きだったものの、高校時代は問題を解くのが中心。概念の拡張や証明がメインになる大学の数学はやはり難しかったです。それでも仲間たちと一緒に意見や考え

を共有しながら勉強することで、理解が深まり、講義についていけるようになりました。

大学生活を経て成長したと思う点について教えてください。

まず言えるのは論理的思考力が身についたことです。また、グループで勉強してきたことで、大勢の前でも自信をもって話せるようになりました。将来、教壇に立つことを目標にしているので、このようなスキルを得ることができて、本当によかったと思います。

数学科出身の教員は、教育学部出身の教員に比べ、指導が分かりにくいといわれますが、数学科で培った専門知識を活かして“分かりやすい”教師になりたいです。数学の楽しさに気付いてもらうためにも授業にグループワークなどを取り入れるなど、色々な工夫をしていきたいですね。



工学部

情報システム工学科3年

※2018年4月より情報工学科に改組予定

高林瑞穂さん(埼玉県立川越女子高等学校出身)

大学に満ちている活気に 学ぶ意欲が向上しました。

埼玉大学を選んだ理由は？

地元の国立大学で、高校の先生の母校だったからです。

大学について、入学前のイメージと実際で異なる点がありましたか？

入学前は、とにかく学生が真面目でどちらかというと地味な印象でしたが、実際入学したら明るく元気な人も多かったですね。また最近は梶田隆章先生がノーベル物理学賞を受賞するなど、卒業生の活躍が目立っているのも、大学自体に活気がある気がします。

埼玉大学で学ぶ魅力は？

先生方の面倒見がよいところは学生

にとっては魅力的だと思います。基本的には、自主性を尊重しているので、細かいことは言われませんが、例えば、講義の後に質問すれば本当に丁寧に対応していただけます。やる気のある学生にはとことん付き合ってくれる印象がありますね。

また、敷地の広さに比べ、学生の数はそのほど多くないので、大学構内が常に過ごしやすいのも魅力の1つ。

大学周辺は住宅街で時間をつぶせるスポットなどがないので、空いた時間は図書館などで勉強していることが多いです。自然と勉強に打ち込める環境ですね(笑)。

とはいえ、都内へのアクセスは悪く

ないので、遊びに行くのに不便さを感じたことはないですよ。

印象に残っている講義は？

工学部の1年生を対象に、全学科の内容を横断的に学ぶ講義は印象に残っています。科学実験や電子回路の製作などを行いました。とても面白かったです。この講義を受けて、他学科の面白味が理解できたのと同時に、自分の学科の魅力が再認識できたことを覚えています。また、情報システム関連の論文は英語で書かれたものがほとんどで、プログラミングのエラー表示も英語。そのため、私の専門である情報システム工学の領域は、英語力があつた方が有利になります。その点、埼玉大学は文系と理系が同じキャンパスにあるので、文系の高レベルな英語の講義なども受けやすい。私自身、上級者向け講義を受け、英語力を向上させることができました。



メリンちゃんが聞きました

あなたの
お気に入りの場所は？

埼玉大学の中には素敵なスポットがたくさんあるけど、みんなはどんな場所が好きなんだろう？ そんな疑問を持ったメリンちゃんが今回話を聞いた5名に直撃インタビュー。
「あなたのお気に入りの場所はどこですか？」



横田さん & 高林さんのお気に入り

第1 食堂

横田さんと高林さんのおすすめの場所は第1 食堂。やっぱり食堂は人気だね！「食堂はもちろん、アイスクリームを買いに、食堂横の購買部にもよく行きます」と横田さん。メリンもアイス食べたいな。高林さんはランチ以外で第1 食堂をよく利用しているみたい。「グループで勉強する時、周りに気兼ねなく話ができるのでよく利用しています」(高林さん)



林部さん & 松田さんのお気に入り

第2 食堂

2014年にリニューアルした第2 食堂を推す声も。

林部さんは第2 食堂のテラス席が特別にお気に入り。「緑に囲まれているので、春や秋の天気の良い日は気持ちよく過ごせます。ランチだけでなく、講義の合間やちょっと時間が空いたときにも利用しています」とのこと。松田さんは「経済学部棟の隣なのでよく行きます。味も抜群です」とコメント。



土屋さんのお気に入り

理学部数学科図書館

大学構内で土屋さんがよく行く場所は、理学部棟にある数学科図書館。室内にはずらりと数学関係の本が並んでいるよ。

「数学に関する論文や洋書も揃っている数学科図書館は、よく利用します。もちろん図書館にも資料はありますが、訪れる頻度はこちらの方が高いです。勉強できるスペースもあるので重宝しています」と土屋さん。



Welcome to my laboratory

ラボ
探訪

教養学部 日本・アジア文化専修 / 劉研究室

日本語を学ぶ外国人の視点から 日本語教育のあるべき姿を考える

教科書にない言葉が使われ

戸惑う訪日外国人

日本語が母国語でない人たちへの日本語教育を研究する「日本語教育学」が専門ですが、私自身、中国で日本語教育を受けた経験があります。

現在は、その経験を活かし、当時の指導で理解し難かった部分や実際に日本で話される言葉と教科書の内容がずれているため、来日後、理解できなかった言葉などについて研究を進めています。例えば、日本でよく使われる「知らねー」「やべー」などのくだけた言葉は教科書には載っていません。そのため、日本人との会話やテレビで、「わりー」「だりー」などを聞いても、外国人は理解できなかったりするのです。

ところが、「エ段長音化」と呼ばれるこのような表現は、実はアイウエオの五段における交替(母音が変化する)現

象が顕著だという日本語の特質に沿ったもの。もし、このような現象があることを知った上で学習できれば、効率よく実用的な日本語を習得できます。

そこで、このような表現や現象について、文法や古語など、様々なアプローチから解き明かしていこうという訳です。

ニア・ネイティブになるために
必要な学習方法とは？

また、近畿方言も外国人にとっては理解しにくいポイントの1つ。テレビでは近畿地方出身の芸能人などが話す関西弁をよく耳にしますが、日本語教育の現場では、やはり取り上げられることがありません。

そこで、このような表現の中でも、日常的に耳にするものを「標準標準語」と定義し、日本語学習者に教える必要

があると提唱しています。

研究の最終的な目的は、日本語の上級学習者がどうすれば、日本人と同様の会話レベルを有する「ニア・ネイティブ」になれるか？——その効率的な指導方法を導き出すことにあります。初級・中級レベルであれば、これまでの学習方法で目標に達することが可能です。しかし、上級者になると誰かの指導を仰ぐというよりは、自らがスキルアップを図る必要があります。そこで、そのような人に向けた教科書の作成や指導法の確立を視野に入れ、研究と実践を行っているのです。

Profile

劉志偉 [りゅう しい]

人文社会科学部 准教授

1997年 (中国) 河北大学外国語学部卒業

2009年 京都大学大学院人間・環境学研究所

博士課程修了

2011年 首都大学東京人文科学研究科

日本語教育学教室助教

2017年より現職

message

劉准教授より
受験生へ



当然のことを当然としてやり過ぎさない

私が担当する講義は、日本語教育者を目標にする留学生と共に日本の学生も数多く受講していますが、彼らにも日頃使う日本語に対し、気になる点を探し、何が気になるのかについて考える癖をつけてもらいたいですね。このような取り組みを続けることで、物事を深く考える能力が身につきます。講義でグループワークやディスカッションにより、学生自ら考える時間を設けているのもそんなスキルを向上させるためなのです。そこに留学生が参加することで、日本人だけでは気付けないことが発見できるのも意義があると考えています。

日本語に関する細かい研究分野が魅力

埼玉大学には、日本語というカテゴリーの中に「日本語学」「言語学」「日本語教育史」「言語政策」など、多様な分野の研究に取り組む先生方がいらっしゃいます。そのような先生方と連携できるのは、様々なアプローチが必要な「日本語教育学」を研究する上では大きなメリットです。一方学生のメリットは、海外での教育実習など実践的な学びの場が用意されているということ。さらに、私のゼミでは一橋大学など、他大学と合同で行うゼミ合宿もあります。学生たちには、校内の留学生はもちろん、多様な交流によって視野を広げて欲しいですね。



Welcome to my laboratory

ラボ
探訪

経済学部 メジャー:国際ビジネスと社会発展/内田研究室

フィールドワークで課題や魅力を発見 都市の持続可能性の向上につなげる

多様な人の意見が渦巻く 都市の実態を分析

ゼミで扱うテーマを、一言で言うと「まちづくり」です。それは住んでいる人が愛着を持って、外から訪れる人も魅力を感じることができる都市を作るためには何をすればよいのか?——ということです。まちづくりを考える上で、必要なのは「都市は多様な主体の共存によって形成されていること」の理解です。まちには、様々な人がいて、それぞれが意見をもっています。みんなが魅力的だと思えるまちを作るためには、それぞれの意見を聞いた上で、物事を考える必要があるのです。とは言え、すべての意見を許容するまちを作るのは不可能です。そこで、地域の人の話を聞いたり、説明して納得してもらうという、まちづくりに至るまでのプロセス自体が重要になります。

つまり、この研究では、都市の実態を空間・景観・コミュニティ・地域資源・商業・再開発・移動手段など様々な視点から分析していきますが、地域の人々とのようにコミュニケーションを図っていくかということも重要なテーマの1つなのです。

現地を歩き、人と接することで 各都市の魅力を深掘りしていく

地域の人とのコミュニケーションと同様、都市の調査・分析で私が大切に行っているのが、実際にまちを歩くこと。

私は現在、大宮駅東口のまちづくりに関わっていますが、例えば、この地域の課題として、人がたまる場所がもっと必要だということがあります。今後、そういった公共空間をいかに設けるかということを考えていきますが、このような課題は、実際にまちを歩か

ないと気付くことができません。

ゼミの演習でもまち歩きを行います。そこで学生は地域の方にインタビューしたりして、人々が過ごす場所や動きなどを観察します。そこからそれぞれの空間の意味や役割、まちの魅力や課題を見つけ、まちづくりの可能性を考察していくのです。

まちづくりは、結果が出るまでに20~40年という長い時間がかかります。最終的にまちが良い方向に変化し、そこに少しでも我々の取り組みが貢献できればよいと考えながら研究に取り組んでいます。

Profile

内田 奈芳美 [うちだ なおみ]
人文社会科学研究科 准教授

1997年 早稲田大学理工学部卒業
2004年 ワシントン大学アーバンデザインアンド
プランニング学科修士課程修了
2006年 早稲田大学理工学研究科博士課程修了
2014年より現職

message

内田准教授より
受験生へ



まち歩きで課題発見能力を養う

学生には、課題を考え、それを解くための方法を自分で考えられる人になって欲しいですね。このようなスキルは、将来、どのような仕事に就くにしても必要不可欠ですが、自ら仮説を立てて、それを検証していくということを、まち歩きを題材に培ってもらえればと思います。

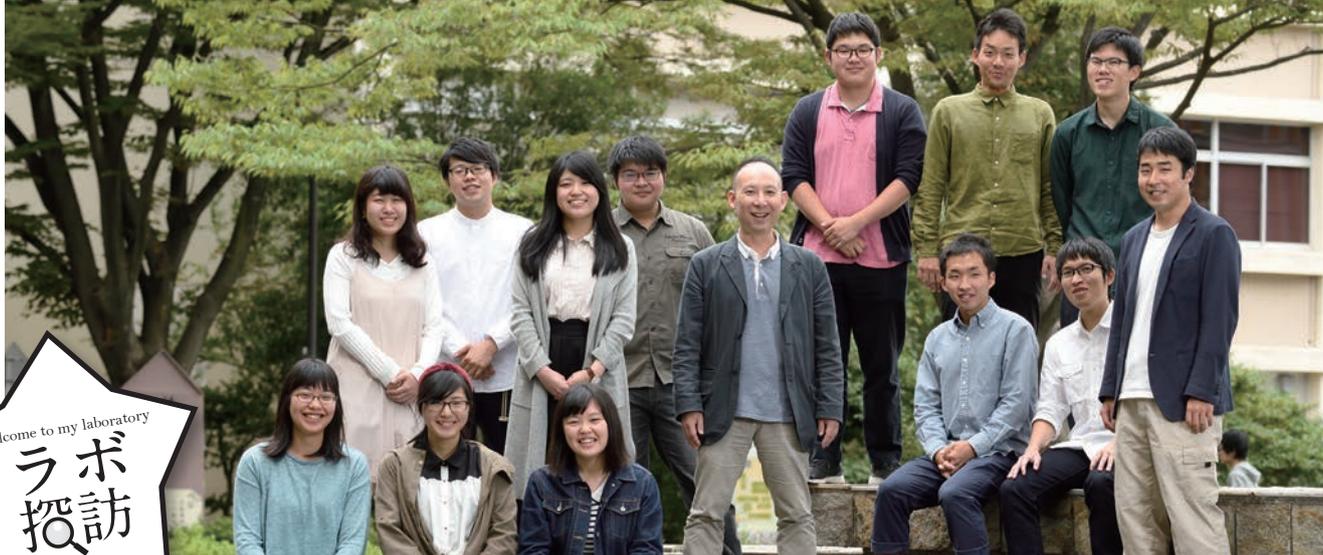
また、この研究には、人や物事を観察する心をもつことが求められます。これから私のゼミに入ろうという学生は、普段からできるだけ数多くの本を読んで想像力を養い、多世代の人とのコミュニケーションを図ってください。

埼玉には日本の都市問題が詰まっている

都市をテーマにしたこの研究を、埼玉大学で行うメリットは、埼玉県というフィールドで活動しやすいことがまず挙げられます。埼玉県は日本で最も市の数が多く、都市の課題も多岐にわたっています。

つまり、埼玉県は日本の縮図のようであると言えます。その地元の大学であることは、立地だけでなく、地域の人達の協力も得やすいといったアドバンテージがあります。

このことは私のような研究者にとっても、まちづくりを学ぶ学生にとっても魅力的なことは言うまでもありません。



Welcome to my laboratory

ラボ
探訪

教育学部 学校教育教員養成課程 / 清水研究室

現代に残る史料を着想に従い配列し 歴史の流れを復元する

既知のソースから 新たな価値を見出す面白さ

私の専門は、日本の中世史(特に鎌倉～室町時代)ですが、この時代の史料は大半が活字化されています。そのため、研究者が見ている史料は大体同じ。そんな中、どのような着眼点で史料を集め、そこから情報を引き出し、新たな価値を見出すかが研究の独自性につながります。私にとって、歴史を研究する醍醐味とは、まさにこの点で、断片的な情報から、仮説の検証に使えるようなものを挙げ、可能な範囲でそれらを結びつけ、歴史の流れを復元することなのです。

ゼミでは、このような研究を行うために必要なスキル——調べものの仕方や史料・論文の読み方について指導していきます。3年生の前期は、読み下し文で書かれた、織田信長の一代記であ

る「信長公記」を精読し、史料の読み方を身につけます。後期は学術論文を読み、論文を読む力を習得します。4年生になると、卒業論文作成に向け、各自が決めたテーマごとに本格的な研究を始めます。なお、日本史なら研究する時代は問いません。

中世ならではの 複雑な社会の枠組みを紐解く

さて、中世という時代の特徴は、権力や正当性の所在が複数存在するところにあります。例えば、鎌倉幕府がある地域に対して、何らかの判決を出しても、実際にその判決内容が実行されるかどうかは別の話。そして、統一的な政府によって秩序立てられていないため、どの階層でも武力行使が問題解決の選択肢となっていたのです。このように、一筋縄では行かない複雑な部

分があるのが、この時代を研究する魅力でしょうか？

埼玉大学に着任してからは、武蔵国(現在の埼玉県、東京都周辺)を中心とした、東日本の武士の歴史について研究を進めています。中でも注力しているのは、15世紀に荘園制が機能していたかどうかを解明すること。私自身は機能していたと考えていますが、その反証となる事象がいくつもあるのが現状です。先述の通り、中世は権力や正当性の所在が複数存在し、社会の枠組みを把握するのが難しいのですが、1つずつ事実を明らかにしたいと思います。

Profile

清水 亮 [しみずりょう]

教育学部 准教授

1996年 慶應義塾大学文学部史学科日本史学専攻卒業

1998年 慶應義塾大学大学院文学研究科史学専攻

(日本史分野) 修士課程修了

2002年 早稲田大学大学院文学研究科日本史学専攻

博士後期課程単位取得満期退学

2007年より現職

message

清水准教授より
受験生へ



情報の本質を見つけよう

歴史の研究では、様々な史料を読み解いて論文を執筆しますが、どれほど優れた研究論文でも100%はありません。そこでどのような史料や研究論文でも、内容をそのまま鵜呑みにするのではなく、自分で調べ直す必要があります。学生には、このような視点を持って研究に臨んでもらいたい。そして、世の中に溢れる情報についても、一度、自分で確かめ、考えるというスキルを養って欲しい。自分で考え、自分で判断をすることは社会に出て仕事をする上でも欠かせません。そうでなければ、他人を説得することはできませんから——。

教育学部だからこそ広がる研究の視野

教育学部は多様な学問分野で構成されています。それ故、多種多様な分野の研究者や様々な学問を学ぶ学生に接することができますが、このような環境の中で研究ができるのは、非常に意義深いことだと感じています。それは「日本中世史」という専門分野だけでなく、より広い「学問」という枠組みの中で、自分の研究がどのような位置付けにあるのかを常に考えられ、研究の視野や範囲を広げることが可能だからです。これは、私のような研究者にとってだけでなく、学生にとっても大きなメリットだと思いますね。



撮影場所: 埼玉大学科学分析支援センター

理学部 生体制御学科 / 畠山研究室

アカパンカビの寿命に関わる変異株を用いて未知なる遺伝子の機能を解き明かす

細胞内の活動を遺伝子レベルで解明

細胞の中にあるミトコンドリアは、生き物が活動するためのエネルギーの大部分を作る重要な小器官です。ミトコンドリアが正常に機能しつづけるには、その形やDNAが正しく維持され、古くなって働きが鈍くなった部分が排除されなければなりません。これらの機構には多くの遺伝子が関わっており、遺伝子に不具合が生じることで、細胞の寿命が短くなり、様々な病気を引き起こすことも分かってきました。

我々は、ミトコンドリアが正常でなくなることで寿命に影響する遺伝子の異常を見つけるために、「アカパンカビ」の短寿命変異株を使った研究を行っています。正常なカビは数年間菌糸を伸ばし続けますが、短寿命変異株は約20日でそれが終結します。短寿命をもたらす遺伝子の異常を特定し、寿命との

関係を解明することが研究の目的です。

純粋にサイエンスに打ち込む気持ちで

パーキンソン病など、いくつかの難病がミトコンドリアの異常が原因で起こることが現在明らかになっています。しかし、ミトコンドリアを正しく維持するために働く遺伝子の多くは未解明です。我々の研究が基となって遺伝子の機能が解明されれば、このような病気の治療法の開発につながるかもしれません。

とは言え、あまり医学的な意義にはとらわれず、純粋に遺伝子の機能を解き明かそうというスタンスで取り組んでいます。これまでもミトコンドリアの機能に関わる遺伝子をいくつか発見してきましたが、もっと多くの関連する遺伝子を見つけ、生命現象の本質に迫ることが重要だと考えます。短寿命

変異株はとても扱いづらいので、色々な工夫をして実験を続けていますが、そのほとんどは失敗ばかりです。しかし、意味のある失敗を積み重ねることが、成果につながると信じています。そのために、論文を読んで思考力を高め、アイデアを具体化して試すことを続けて、根気強く取り組んでいます。



◀研究で使われる「アカパンカビ」。このカビは遺伝学のモデルとして優れており、遺伝子の研究に古くから使われている

Profile
畠山 晋 [はたけやましん]
 理工学研究科 准教授

- 1990年 東京理科大学理学部第二部化学科卒業、食品会社勤務、研究所勤務を経て、
- 1998年 埼玉大学大学院理工学研究科博士後期課程修了、ベンチャー企業勤務、医学系大学ポスドク、農学系大学研究員を経て、
- 2004年 埼玉大学総合科学分析支援センター講師
- 2015年 埼玉大学科学分析支援センター准教授
- 2016年より現職

message

畠山准教授より
受験生へ

論文で様々な考えに触れ、視野を広げる

研究室の学生には、自分の研究テーマはもちろん、できるだけ幅広いテーマの論文を読むよう指導しています。他分野の研究者の視点やアイデアに触れることが、オリジナリティを高めることにつながるからです。研究分野以外の論文を読むことは大変ですが、効率的な読み方や、アウトプットの仕方についても、ステップ・アップしていけるよう丁寧な指導を心がけています。そして、その知識と経験の積み重ねによって、将来あらゆる世界において、困難な状況でもしなやかに対応でき、大いに活躍する人物になってくれることを期待しています。

純粋な生物好きの要求に応える学びの場

我々が取り組んでいる基礎研究は、純粋に生物学が好きな学生にとっても向いている領域だと思います。埼玉大学の理学部生体制御学科では、「遺伝学」「発生病態学」「調節生理学」「細胞機能学」「植物形態・生理学」の5分野について、それぞれを深く学ぶことができるカリキュラムがあり、履修できる講義の選択の自由度が高いことから、学生が興味をもって専門性を伸ばすのにぴったりの環境だと言えます。

実際、この学科の学生は、本当に生物好きが多いことをいつも感じています。



Welcome to my laboratory

ラボ
探訪

工学部 情報システム工学科 / 小林研究室

※2018年4月より情報システム工学科は「情報工学科」に改組予定

人と機械の心地よい関係を実現する ヒューマンコンピュータインタラクション

本当に人に役に立つロボットは どう振舞うべきなのか？

人とコンピュータの関わり合いをデザインし、それを実現するシステムを構築することが研究テーマになります。具体的には、カメラやセンサを使って人の行動を計測する技術やそこから得たデータを人の役に立つように活用するシステムの開発を行っています。

現在、注力している研究の1つが、人の動きに合わせて移動するロボットの開発。例えば、自律的に走行する介護用の車いすロボットは、車いすに乗る人と並んで歩く人が自然に会話できるような位置取りや動きを判断して動きます。つまり、単に移動するだけではなく、乗る人が心地よく移動するために、ロボットはどう動くべきかということにフォーカスしています。

研究では、実際に現場に赴くことを

大切にしています。車いすロボットの場合は介護施設でしたが、やはり実際に利用する人のことをしっかり見ないと本当に役に立つものは作れません。現場で実験を繰り返しながら、利用者の要望や課題を明らかにし、それらを1つずつ解決していくのです。

研究成果が社会に与える インパクトは未知数

私たちの研究分野では、ロボットは飽くまでセンシング技術などの基礎技術を人の役に立つ形にするためのデバイスの1つ。ロボット以外にも様々なシステムの提案を行っています。

今後の目標としては、場の空気が読める機械を作りたいですね。例えば、急いでいそうな人や気が短そうな人を理解するなど、場の雰囲気を読み、配膳の順番などを考え、その場にいる人

すべてが気持ちのよくなるウエイターロボットなど——。

そのような雰囲気やセンシングする技術や知能を組み込んで、人が一緒にいて本当に心地よいロボットや機械を作っていきたいと考えています。



◀スーパーマーケットでの実証実験が進む「自律移動買物カート」。高齢者向けの買物リハビリを行う際の介護者の人材不足解消のために開発を進めている

Profile

小林 貴訓 [こばやし よしのり]
理工学研究科 准教授

2000年 電気通信大学大学院情報システム学研究所 修士課程修了
2000-2004年 三菱電機株式会社
2007年 東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程修了
2007年 埼玉大学大学院理工学研究科助教
2014年より現職

message

小林准教授より
受験生へ



自分が好きなことと強みを自覚して

学生たちには、将来、自分が本当に好きなことや得意分野に関係する仕事に就くことを目標にして、最終的には自分だからこそのやる方で仕事に携わって欲しいと思います。そのためにも、何もすべてにおいて完璧を目指す必要はありません。例えば、国語は70点、算数は40点、理科は90点という凸凹があってもOK。その凸凹を個性として自覚し、どう生かすかを考えることが重要なことです。また、どんな分野でも同じだと思いますが、研究に失敗は付き物。私のゼミで学ぶなら、是非、失敗を恐れず、チャレンジ精神を持ってください。

研究に必要な不可欠な文理融合がしやすい

文系と理系の学部が同じキャンパスにあるので、文理の先生の距離が近く、コラボレーションしやすいのが埼玉大学の大きなメリット。特に、私の研究では、人とロボット・機械の関係性を分析する上で、社会学の知見が必要不可欠なので、このような環境にあることは本当にありがたい限りです。

また、学生にとっては、教員数に対して学生数が比較的小さいので、教員と学生の距離が近いことが、埼玉大学工学部で学ぶ最大のメリットではないでしょうか？ それ故、丁寧かつ親身な指導が受けられると思います。

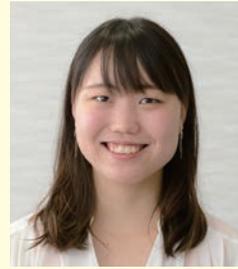
埼玉大学
学生後援会が
サポート

学生の自主的活動プロジェクト

児童文化研究会

埼玉大学学生後援会では、学生が自主的に企画・運営するプロジェクトを対象に支援金の給付を行っています。今回は、実際に支援金がどのように活用されているのかについて、支援を受けるサークルの代表にお話を伺いました。

児童文化研究会 代表
中道はるなさん



教育学部
学校教育教員養成課程3年
石川県立金沢桜丘高等学校出身

埼玉大学学生後援会とは

埼玉大学学生後援会は、学生の厚生補導の援助を通して学生生活を豊かにし、将来有能な社会人の養成及び国際社会に貢献する者の養成に寄与するため、趣旨に賛同いただける在学生の保護者及び教職員等を会員として設立された団体です。

学生後援会の運営資金は、保護者等の皆さまから

の会費により賄われております。就職活動、国際交流、学生表彰、自主的活動・課外活動の支援など、今後とも各種事業の充実を図るため、会員の皆さまのご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。詳しくは、「埼玉大学学生後援会」のホームページ (<http://park.saitama-u.ac.jp/~koenkai/>) をご覧ください。

子供たちに遊ぶことの 楽しさを伝えたい

児童文化研究会は、地域の子供たちを中心に様々な遊びの場を提供するサークルで、未就学児から小学生までの子供たちを対象に3つのグループごとに活動を行っています。「文化財グループ」は小学校や団地を回る人形劇の公演が主な活動で、「児童文学グループ」は大学周辺地域の子供たちに自作の大型絵本の読み聞かせなどを実施。そして「地域子供会グループ」は、サークルのメンバーが地域の子供たちと遊ぶ子供会を毎週土曜日に開催。鬼ごっこやドッジボールなど、主にカラダを使った遊びを楽しんでもらいます。

保護者の方からは「家だとゲームばかりしているので、外で遊ぶ機会を作ってくれてありがたい」という声が聞か

れますが、子供たちも普段接点のない大学生と遊ぶことをとても楽しみにしているようで、こちらもやりがいを感じながら活動しています。

支援金のおかげで広がる 今後の活動範囲

一昨年まで、すべての活動費は子供たちから集める会費だけで賄っていたので、正直予算は限られたものでした。そのため、例えば「地域子供会グループ」の活動に必要な備品や遊び道具などは、古いものをそのまま使ったり、サークルメンバーの私物を持ち寄って何とかやりくりするという状況。しかし、昨年からは学生後援会のご支援をいただき、工作の材料や道具などは、十分な数を揃えることができました。

その結果、遊びの種類も増えて子供

たちも大喜び。その他にも支援金は「文化財グループ」の人形劇用の人形と舞台の新調や、「児童文学グループ」の新しい絵本の製作などに使わせていただいています。

現在、備品や道具などの新調、買い足しが支援金の主な用途ですが、今後は新たなイベントの企画など、活動の幅を広げることに役立てていきたいですね。このようなことを考えられるようになったのも支援金によって経済的な余裕ができたからこそだと思います。

支援金の申請手続きがそれほど難しくなく、審査も書類で完結するのは、手間がかからず、本当にありがたかったです。もし、自主的な活動を行っている学生団体で、この制度を知らずに利用していないのであれば、非常にもったいないと思います。



左から、研究会メンバー集合写真/文化財グループの人形劇の様子/児童文学グループの大型絵本/地域子供会グループの活動の様子/購入した工作材料や文房具

「現在、ベトナムは経済成長が続いており、開発によるゴミが増加しています。それに伴い、不法投棄や環境汚染などの問題が深刻化しているのです」

そう語る理工学研究科の川本 健教授はベトナムの首都・ハノイ市で建設廃棄物(建廃)のリサイクルを推進する国際的なプロジェクトの中心人物。

プロジェクトは「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)」の支援を受けて、埼玉大学とベトナム国立建設大学が共同で行うもので、研究費の総額は約4.8億。研究期間は来年から5年間で、日本側からは埼玉県環境科学国際センターと国立環境研究所も参加し、ベトナム政府が2025年までの目標に掲げる「建廃リサイクル率50%」実現への貢献を目指します。具体的には、建廃を適正に管理するためのガイドラインの整備や

現地にリサイクルという概念を根付かせるためのビジネスモデルの提案、リサイクル資材の研究などを行うとのこと。

リサイクル資材の研究について、川本教授は「技術開発により、廃材の価値を高め、現地の課題を解決する資材として利用することで『ゴミの地産池消』を目指す」と説明。例えば、建廃に含まれる軽量気泡コンクリートは、ヒ素や重金属類を吸着することが研究で分かっています。そこでこれをリサイクルし、汚染水を浄化する資材として再利用しようというのです。この他、大雨時の冠水を抑制する路盤材への活用についても研究が進められます。

さて、プロジェクトには川本教授の研究室に在籍する学生も参加しますが、マレーシアからの留学生である MOHD SAUFI さんもその1人。

SAUFIさんは「建廃の問題はマレーシアでも深刻なので、プロジェクトで得た経験を自国に持ち帰りたい」と語ります。ゴミ問題は他国も悩む地球規模の問題。それ故、プロジェクトの成功は世の中に大きなインパクトを与えるものと期待されるのです。また、同研究室の吉田勇輝さんが「調査など、私たちにも現地での役割が与えられますが、学生の立場で現地プロジェクトに携われる貴重な機会なので、様々な面でスキルアップを図りたいです」と話すように、日本の学生にもプロジェクトへの参加は意義深いものになるでしょう。

SATREPSとは？

「科学技術振興機構(JST)」と「国際協力機構(JICA)」が共同で行う事業プログラム。途上国における地球規模の課題を、日本と現地の科学技術協力によって解決するプロジェクトへの研究支援などを行っています。

グローバルに活躍する人材へ

来年、ベトナムでリサイクルに関する一大プロジェクトがスタートします。埼玉大学と現地の大学の共同研究として実施され、持続可能な社会を構築する上で避けて通れない「ゴミ問題」という、地球規模の課題を解決を目的とした注目のプロジェクトです。

フィールドは世界—— 地球規模の課題を解決する注目の研究に携わる

理工学研究科 川本研究室



今年8月25日にハノイ市内で行われたプロジェクトの技術協力署名式の様子。川本教授も出席

Profile

川本 健[かわもと けん]
理工学研究科 教授

1994年 東京大学農学部卒業
1996年 東京大学大学院農学生命科学研究科修士課程修了
1997年 埼玉大学工学部助手
2007年 埼玉大学大学院理工学研究科准教授
2013年より現職



右から、川本 健教授、MOHD SAUFI(モハマド ソフィ)さん(理工学研究科博士前期課程2年、クアラルンプール・ケダ高等学校出身)、吉田勇輝さん(同1年、群馬県立館林高等学校出身)



バンドマスター
佐藤 花奈さん
 Kana Sato



教育学部
 学校教育教員養成課程3年
 埼玉県立熊谷女子高等学校出身

スイングしなけりゃ
 はじまらない！

SCJO Blue Band

サークルDATA

部員：男子12名、
 女子12名
 活動場所：サークル会館

一般的にジャズというイメージが敷居が高いとか、小難しそうといったイメージがあるかもしれませんが、実際はとても自由で誰でも楽しめる音楽。聞くだけでなく、演奏すれば、奥深いジャズの世界に魅了されること間違いなし！

演奏してはじめて分かる

ジャズの魅力とは？

私たちの活動における最大の目標は、学生ビッグバンドの全国規模のコンテストである「YAMANO BIG BAND JAZZ CONTEST」の本選に出場すること。今年は、あと一歩及びみせませんでした、「来年こそは必ず出場するぞ！」と心に決め、様々なイベントや演奏会でプレイしながら腕を磨いています。

ビッグバンドジャズを演奏する魅力の1つは高度なアレンジ。吹奏楽に比べると人数も楽器の数も限られているため、同じ楽器でも異なることをするのは当たり前で、常に演奏者一人ひとりの技量が問われるのです。また、楽器ごとのソロパートが多いのも特徴。ソロは即興で演奏するのがジャズの醍醐味ですが、プレイヤーにとっては最大の見せ場なので演奏しているときは本当に気持ちがよいです。

私たちのサークルは、設立が2000年と他大学のビッグバンドに比べると歴史が浅いので、伝統に囚われず、新



しいことに挑戦するのがモットー。また、大学に入ってから楽器を始めたメンバーが多く初心者でも臆せず参加できるのも特徴の1つです。

現在、サークルには3年生と2年生中心のレギュラーバンドと、2年生と1年生中心のジュニアバンドの2つがあり、ジュニアバンドのコンテストが毎年9月に開催されます。つまり初心者でも約5か月でステージで演奏する訳です。

普段の練習は平日の3日と土曜日に行っているのですが、結構ハードに見えるかもしれません。でも、練習すればするほど楽器は上達するので、不思議と苦にはならないのです。皆演奏を楽しみながら、練習に励んでいます。

演奏する曲は、はじめてジャズを聴く人でも親しみやすいように多くの人に耳なじみのあるスタンダード曲を中心にセレクトしています。まずは一度、私たちのプレイを聴きに演奏会に来てください。生で聴くジャズの格好よさと迫力は格別ですよ！

主な年間活動予定

- 4月 新歓ライブ
- 5月 「YAMANO BIG BAND JAZZ CONTEST」東日本予選
- 7月 サマーコンサート(定期演奏会)
- 8月 「YAMANO BIG BAND JAZZ CONTEST」本選、夏合宿
- 9~10月 ジャズフェスや他大学バンドとのジョイントコンサートなどで演奏
- 11月 学園祭にて演奏会
- 12月 ウィンターコンサート、リサイタル
- 3月 卒業生追い出しコンサート、春合宿

卒業生紹介

活躍する卒業生からのメッセージ



大宮西警察署員約140名を束ねる警察署の最高責任者

被害者を出さないことが第一

警察署長の主な仕事は、確実かつ効率的な地域の治安維持活動を実現するための戦略立案や、警察署職員の指揮・監督を行うこと。そして、住民の皆さんに警察の活動を知っていただいたり、困っていることを直接お伺いするために、地域の会合やイベントなどに出向くことも重要な職務の1つです。

昨年の秋に警察署長に就任して以来、重点的に取り組んでいるのは、犯罪や事故の抑止効果を上げる活動。

警察の使命は、地域の方々が安心して暮らせる生活を守ることですが、事故や犯罪は起こらないのが一番です。そのため、警察官によるパトロールや地域の方に許可をいただいた場所での駐留警戒などを積極的に行っています。

また、強い組織を作るためには、互いに協力し合える信頼関係を築くことと、警察官それぞれが個性を活かしながら活躍できる職場環境を作ることが

重要。それを実現するために、直接署員の話や意見を聞くように心がけ、若い署員ならではの意見やアイデアも積極的に取り入れるようにしています。

警察官になって役立った幅広い学び

教師になるために埼玉大学の教育学部に入学したのですが、在学中に行った教育実習がきっかけで警察官になるように考えようになりました。

当時は少年非行の戦後第3のピークで、教育実習で目の当たりにした中学校の荒れた状況にショックを受けたのです。当時「婦人警察官」と呼ばれていた女性の警察官は、少年を担当するイメージがありましたが、そんな折に「警察官募集」のポスターを見かけ、教師とは違った立場から少年たちに関わることに意義を感じたのです。

警察官の仕事は、幅広い事象を扱いますので、幅広い教養や学問分野を学ぶ小学校の教職課程を出ていてよかつ

たとえ明確な目標がなくても学んだことは何1つ無駄になりません

埼玉県警察 大宮西警察署長

杉崎 恵子さん

Keiko Sugisaki



昨秋の署長就任時には、埼玉県警察初の女性署長として話題に

たと思うことは、よくあります。

大学では、目標を持って専門的なことを学ぶのはもちろん、将来やりたいことを模索しながら学んでも、私のように学びながら途中で進路を変更してもよいと思います。そんな多様なニーズに応えてくれる柔軟性が埼玉大学のよさかも知れせんね。

Profile

埼玉県大宮市(現さいたま市)生まれ
埼玉県浦和市立(現さいたま市立)浦和高等学校出身
1983年 埼玉大学教育学部学校教育
教員養成課程卒業
1983年 埼玉県警察学校卒業後、交番勤務
2009年 埼玉県警察本部 警務課
犯罪被害者支援室長
2014年 埼玉県警察本部 少年課長
2016年 埼玉県警察 大宮西警察署長

ポスターに託す学長の熱き想いと 埼玉大学のメッセージ

埼玉大学は2015年から、高校生や地域の皆さんに向けたポスターを作っています。デザイナーの坪谷彩子さんとその都度話し合い、イメージを作り上げます。そして広報や入試担当、学長室の皆さんも一緒に、坪谷さんからの提案を絞り込みます。とても楽しい協働です。ここではこの秋の最新作に託す埼玉大学からのメッセージ、制作の舞台裏を少しご紹介しましょう。学長の熱き想いが少しでも伝わることを願って……。

埼玉大学長 山口宏樹



制作ミーティング

8月の暑い一日、制作チームのメンバーが会議室に集合。7作目で打合せもスムーズだ。坪谷さんから、これまでの作品・イメージの流れとともに、「物語-Story」をテーマとした新ポスターの構想が説明される。それを受け、私は埼玉大学の最新の動きと、学長としての考えを語る。その想いは入学式での式辞で新生に語りかけたもの、日本技術士会の会報9月号巻頭言でも触れている。



埼玉大学ポスターシリーズⅢ 2017_2 物語-Story Photo: TERABAYASHI MASAYO

学長の想い: AI・チームワーク・学習

今年2月、人工知能学会はAIが社会の構成員となるため研究者と同等に倫理指針を遵守しなければならないとした。その姿は鉄腕アトムやドラえもんとのこと。米

国電気電子学会もAIを社会の価値観に沿ったものにする事で「人間の幸せの増大」を進歩の基準にできるとしている。つまり、AIと人間との補完的機能だ。

ところで、埼玉大学の4人が加わった理化学研究所ニホニウム発見チームは2016年ベストチーム・オブ・ザ・イヤーを受賞している。チームとしての効果と効率だけでなく、メンバーの満足と学習が評価されてのこと。今の「知識社会」にあって、知恵を結集して社会イノベーションを起こすためには、多様な専門家の協力、チームワークが不可欠だ。

AIは極めて優秀な専門家「人間の

幸せの増大」に寄与する。ただ、正解のない問題や予期せぬ事態への対応には、厳密なルールだけではだめで「ゆるさ」が必要。人間の専門家の出番だ。チームワークを発揮すべく、人間とAIは互いに切磋琢磨し、それぞれにチームの一員としての満足と学習を追求しなくてはならない。結局、人間も、AIも、継続的な学習はいつまでたっても必要だ。

新ポスターのコンセプト

この学長の想いと大学の取組を踏まえてまとめたコンセプト、埼玉大学からのメッセージが以下である。「かつてSF

映画や漫画に描かれた21世紀を生きる私たちに必要なのはどんな物語なのだろう。国籍、年齢も多様なひとが集う埼玉大学は、地域の先に世界との協働を目指した多様なプロジェクトのある多文化キャンパス。人智を超える自然現象と共に生きる知恵、高齢化を見据えたAIを導く倫理など、一つの専門分野で提言できない課題に挑み、社会イノベーションを目指す。それぞれの個性が発揮されるチームワークから、これからの物語が生まれるだろう。」

ポスターに込めて

坪谷さんは「埼玉大学が国際交流やダイバーシティを推進しているイメージをみなさんに伝えたい。キャンパスにしながら留学生でさえも、他文化、異文化を体験でき、共存、協働を目指す風土、予測不可能な近未来を描き出す物語、それぞれの個性を発揮できるチームワークで生み出してゆく物語をヴィジュアルにデザインした」と語る。多文化キャンパスのカラフルさ、動きのある対話の輪、物語のワンシーンのような光と影を楽しみつつ、ポスターに込められた多様な想いを感じてもらえれば、と願う。



坪谷彩子、デザイナー
サイエンスや教育、町おこしから里山探検まで、多岐に亘った分野で、体験をアートにする活動をしている。
つなぐことデザイン:ブックトウキョウ主宰
女子美術大学非常勤講師

Information

資料請求[大学案内・募集要項等]

1. テレメールで請求する

ホームページから https://telemail.jp/_pcsite/?des=033761&gsn=0337655

スマートフォン・携帯電話から

IP電話から **STEP1** 下記番号に電話してください。

IP電話 TEL 050-8601-0101

右のバーコードを読み取ってアクセスしてください。



STEP2 資料請求番号(6桁)を入力又はプッシュしてください。

資料名	資料請求番号	資料名	資料請求番号
大学案内	561791	教養学部案内	561711
入学者選抜要項(願書ではありません)	581791	教育学部案内	561721
入学者選抜要項・大学案内(願書ではありません)	561701	経済学部案内	561731
一般募集要項(願書含む)※	581721	理学部案内	561741
一般募集要項・大学案内(願書含む)※	541711	工学部案内	568651
推薦入試募集要項(願書含む)	581711		

※11月中旬に発送開始します

STEP3 ガイダンスに従って登録してください。

住所、名前の登録時には、ゆっくりはっきりとお話してください。
登録された音声不明瞭な場合は資料をお届けできないことがあります。
一度ご利用になられた暗証番号(4桁)は必ず控えておいてください。送料をお支払いいただく際に必要になります。
また、テレメールを繰り返しご利用いただく時にも便利です。

テレメールの資料請求方法などについてのお問い合わせ先

テレメールカスタマーセンター TEL 050-8601-0102 (受付9:30~18:00)

2. 大学情報センター「モバっちょ」で請求する

スマートフォン・携帯電話から

※「モバっちょ」では、資料請求料金を携帯電話の通話料金と一緒に支払えます。
※携帯電話の機種、携帯電話会社との契約状況により利用できない場合があります。



ホームページから <http://djc-mb.jp/saitama-u/>

「モバっちょ」の資料請求方法などについてのお問い合わせ先

大学情報センター株式会社 モバっちょカスタマーセンター
TEL 050-3540-5005 (平日9:00~17:00)

3. 埼玉大学に来学して受け取る

埼玉大学学務部入試課(教育機構棟1階)で受け取ることができます。
月曜~金曜(祝日等を除く)9:00~17:00
※守衛所(埼玉大学正門わき)では、上記の曜日・時間以外におも渡しできます。

公式マスコットキャラクター

メリンちゃんのLINEスタンプ発売中!



埼玉大学生協同組合では、受験宿泊プランの紹介など受験段階でのサポートや、新入生の新生活準備といった様々なバックアップを行っています。詳しくは「受験生・新入生応援サイト(<https://www.univcoop.jp/saitama-u/start/>)」をご覧ください。

[受験宿泊先の紹介](#) [住まい探し](#) [新入生イベント](#) [学生生活](#)



埼玉大学入試 LINE @

LINE@アカウントを友だち登録して下さった方に、入試情報、入試関連イベントのお知らせなど受験生みなさんに役立つ情報をお届けします。



SAIDAI CONCIERGE vol.26

■発行日 2017年11月
■企画・編集発行 埼玉大学広報渉外室
■問い合わせ先 〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255
TEL 048-858-3932 FAX 048-858-9057
E-mail koho@gr.saitama-u.ac.jp



この冊子に関するご意見やご質問は、
埼玉大学広報渉外室までお寄せください。

<http://www.saitama-u.ac.jp>